令和６年１月９日発行

有害プランクトン情報　（令和５年度 － No. 8）

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所・生産技術研究室
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾で沖合のプランクトン調査を行っている他，県内の貝類漁場でもプランクトンの出現状況を調べています。プランクトンの種類や密度によって，魚類のへい死や二枚貝の毒化を起こすことがあるため，毎月，有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

○ 調査日	沖合	11月　第１回	内湾（8地点）	11/5	内房（7地点）	11/5
		11月　第２回	内湾（8地点）	11/21	内房（8地点）	11/27
		臨時調査	内湾（13地点）	11/5※	※第１回調査の内湾8地点に3地点（浦安，波浪塔，幕張深掘部）を加えて実施	
			内湾（7地点）	11/16		

東京湾(内湾)

【有害プランクトンの出現状況】

○　第１回調査時にカレニア属がみられました。

・11/5　幕張深掘部（沖合）密度はアクア南の 0.1 細胞/mL

※　シャットネラ属は 1 細胞/mL，シュードシャットネラ属は 100 細胞/mL，ヘテロシグマ属は 1,000 細胞/mL，カレニア属は 100 細胞/mL 以上で注意報を発出します。

○　赤潮（透明度 1.5 m 以下，pH8.5 以上，酸素飽和度 150%以上，クロロフィル a 50 μg/L 以上）はみられませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

11/2 の東京海洋大学の調査でアレキサンドリウム属の赤潮（横浜～浦安付近）がみられたことを受け，11/5 に 11 地点, 11/16 に 7 地点の臨時調査を行いました。11/5 は，全地点でアレキサンドリウム属がみられましたが，LAMP 法（遺伝子による種検査）の結果，有毒種であるパシフィカム及びカテネラではありませんでした。また，11/16 以降の調査ではみられませんでした。

１　麻痺性貝毒原因プランクトン

○　第１回調査時に内湾の全地点でアレキサンドリウム属がみられました。

・内湾全域（沖合）最大密度は羽田沖の 680 細胞/mL

※11/16, 21 の調査ではみられませんでした。

２　下痢性貝毒原因プランクトン

○　第１回調査時に沖合漁場でディノフィシス　アキュミナータが低密度で確認されました。

・富津（沖合）密度は 0.1 細胞/mL

○貝毒の被害情報はありませんでした。

（貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載）

東京湾(内房)

【有害プランクトンの出現状況】

○　確認されませんでした。

○　赤潮は確認されませんでした。

【貝毒原因プランクトンの出現状況】

11/5 に 3 地点でアレキサンドリウム属がみられましたが，LAMP 法（遺伝子による種検査）の結果，有毒種であるパシフィカム及びカテネラではありませんでした。

11/27 の調査ではみられませんでした。

1　麻痺性貝毒原因プランクトン

○　第１回調査時に３地点でアレキサンドリウム属がみられました。

・富津南，大貫，浦賀水道（沖合）最大密度は富津南の 39.2 細胞/mL

※11/27 の調査ではみられませんでした。

2　下痢性貝毒原因プランクトン

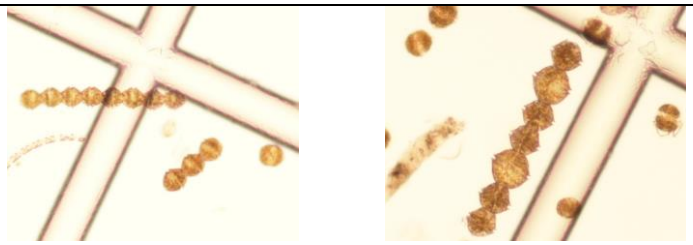
○　確認されませんでした。

○　貝毒の被害情報はありませんでした。

（貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載）

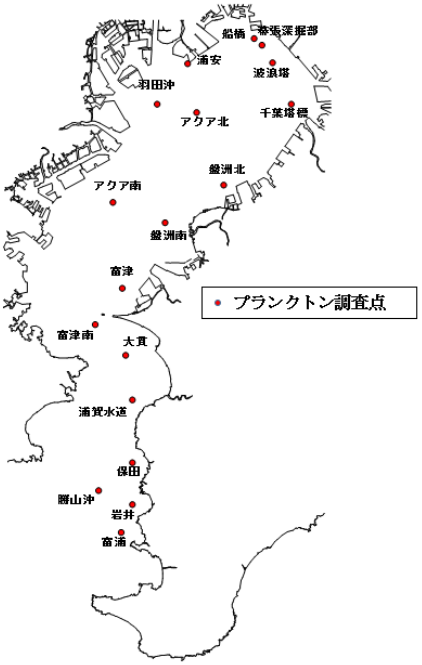
○　各海域で見られたプランクトンの優占種

11/5	内湾・内房	渦鞭毛藻アレキサンドリウム属，珪藻シュード　ニッチア属など
11/16	内湾	渦鞭毛藻アクティノプティス属など
11/21,27	内湾・内房	渦鞭毛藻タラシオネマ属など



アレキサンドリウム属
（11/5 富津）

○　調査点（沖合漁場）



連絡先　：　千葉県水産総合研究センター　東京湾漁業研究所
〒293-0042　富津市小久保 3091　　TEL 0439-65-3071　　E-mail　futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp